

かわ ごえ よう いち

## 川越庸一

## 温かく飾らない謙虚な人

## —軸受専門メーカー・大同メタルの創設—



川越庸一 (1893 ~ 1983)  
出典：『大同メタル工業50年のあゆみ』

## ■生い立ちから大同メタルの設立まで

川越庸一は、1893年、福岡県福岡市に生まれた。若くして、父(教員として奉職)を亡くしたので、幼くして病弱な兄を筆頭とした家族の生活を支え、兄弟姉妹に教育を受けさせることに腐心した。

1915年、官立熊本高等工業学校(現熊本大学)機械科卒業し、同年、自動車の設計製造を希望して日本自動車(株)入社した。1922年、同社を退社し、自動車工業実地研究のため、単身渡米した。デトロイトへ赴き、自動車工場の職工として入社し、自動車製造技術の修得に努めた。1926年、川越は当初の目的を果たして帰国した。

1929年、川越は名古屋へ転居し、日本ゼネラルモーターズ(株)の名古屋販売サービス部長に就任にした。川越は、名古屋市役所へバス用のシャーシを売り込み、大岩市長の知己を得た。大岩市長に、名古屋を米国のデトロイトの様な自動車産業地域に育てたい、との願望を伝え、啓蒙に努め、実際の車づくりに参加した。

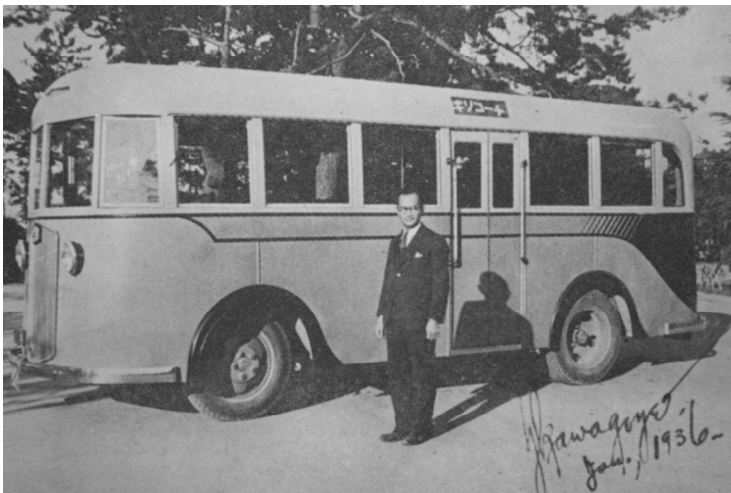
1933年、自動車部品製作コンサルタント川越工業所設立した。1938年、名古屋市中川区の工作機械工場を入手し改装して川越工業所の工場とした。

1939年、川越工業所を発展させ、自動車用軸受メーカーの大同メタル工業を設立した。戦前から戦中、戦後と軸受けメタルの製造、販売に辣腕を振るつた。戦中は、他の業者の様に軍需への転換を図らず、ひたすら、自動車用のプレーンメタルの製造を行った。戦後は、自動車のエンジンメタルの業界の技術の向上と、規模の拡大をけん引していたので、後年、川越は部品業界の元老という異名をとった。

## ■自動車者への情熱

日本国内では自動車製造の端緒もない時期に、川越は熊本高等工業学校在学中、自動車に大きな興味を覚えた。川越の卒論は、実物の自動車を分解しているところを観察し、知識を得て、自動車の設計図を作成提出した。この卒論の図面を提出して日本自動車(東京の自動車輸入販売会社)へ技師として就職した。自動車の構造を学ぶことはできたが、製造には結びつかなかった。そこで、自動車の大量生産を実用化していたアメリカの技術を学び取ることを目的にして、渡米した。

帰国後、川越は外資系の自動車販売会社へ就職し、「中京デトロイト化(名古屋の自動車工業都市化)」の構想を当時の大岩市長へ伝え、「アツタ号」、「キソコーチ号」の設計製造に携わった。



キソコーチ号

出典：『大同メタル十周年記念』

川越は、米国製乗用車ナッシュを複製したアツタ号の生産に関して主導的な役割を果たした。

豊田式織機は、単独で自動車部を設立して、自動車の生産を目論んだ。1934年から自動車製造に取り掛かり、バスを生産した。川越は、この車両の設計を行った。これは「キソコーチ号」と名付けられ、合計12両製作し、名古屋市交通局に納入した。

しかし、豊田式織機は、この12台を製造、納品後は、自動車生産から撤退した。また、1937年、川越は、岡本自転車工業の陸軍の要請により試作した小型四輪駆動車「岡本号」の設計を手掛けた。

(杉山清一郎)